

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立みなら特別支援学校（本校・松山城北分校）

51

評 価 実 施 日		令和 7 年 2 月 26日 (水)	
委 員	氏 名	所 属 等	備 考
	伊藤 剛志	社会福祉法人 馴鹿（となかい） トナカイ福祉交流館あい 施設長	学校評議員
	池川 良徳	東温市見奈良区長	学校評議員
	恒岡 夕貴子	スクールソーシャルワーカー	学校評議員
	前園 俊恵	法蓮寺住職	学校評議員
	永井 裕二	社会福祉法人松山手をつなぐ育成会 総括管理者	学校評議員
	日野林 茜子	P T A 会長	
	森田 佳子	P T A 会長（分校）	
	米倉 瞳	P T A 副会長	
	渡邊 泰正	P T A 副会長	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
○卒業後のフォローアップについて 卒業後は何年間ぐらい追跡しているか。仕事を辞める率は多いか。仕事を辞めるとなったときに学校との連携は行っているか。（本校） ○児童生徒について 作品や絵画が素晴らしい。地域での展示を積極的に行ってほしい。（本校・分校） ○キャリア教育について キャリア教育=就職だけではないと思う。A型事業所以外の、B型事業所等などに向けてのキャリア教育はされているか。（本校） ○ITリテラシーの伝え方について ICTの利用で便利になる面もあるが、ITリテラシーをどのように生徒さんに伝えていくかが非常に難しい問題であると思う。（分校） ○安全教育の充実について 比較的軽度の生徒さんが多く、安全教育の充実を更に図ってほしい。講話以外の実践を安全教室で取り入れる方法もよいかもしれない。（分校） ○学校評価アンケート、自己評価表について ・概ね高い評価で良好な運営が実施されていると感じた。普通科A型、B型は以前からあったのか。違いを教えてください。（本校） ・教職員のアンケートで無回答があるのが気になった。（分校） ○教職員の専門性の確保について 教職員の異動、補助支援員の人員不足等、人材面での専門性の維持継承が難しい状況かと思う。（本校・分校）	○卒業生へのフォローは向こう3年間行っており、それ以降も情報の把握をしている。実習の積み重ねをしているため、普通高校よりも職場への定着は良いと感じる。卒業前にえひめ障がい者就業・生活支援センターとつなげて、卒業後の仕事面や生活面でのフォローが行えるようにしている。 ○フジ見奈良店、フジ志津川店、伊予銀行和気支店ロビーなどで作品展示を行っており、本校の教育活動を周知するよい機会となっている。 ○キャリア教育月間重点目標を定め、小学部段階から取り組んでいる。企業で働くための力を付けるということだけではなく、自分の役割を果たすことが大切だと考えている。 ○SNS利用の仕方等について、全体指導及び各ホームルーム等で指導を行っている。産業科においては、情報の授業の中でも取り扱い指導をしている。 ○例年4月下旬に地域の交通安全指導協会の方に来校いただき、交通安全教室を実施しているほか、年4回登校指導を行い、学校周辺の生徒の交通安全について指導する機会を設けている。 ・高等部普通科は平成26年度よりA型B型に分かれている。A型は、教科別の指導と作業学習が柱で、就職等を目指している生徒が在籍している。B型は、日常生活の指導や生活単元学習等の各教科等を合わせた指導を中心に授業を行っており、それぞれの実態に応じた目標を立て、個に応じた授業に取り組んでいる。（本校） ・無回答だったのは事務職員で、授業等を行っていないため回答することができなかった。（分校） ○今ある人材の中で専門性を維持できるように工夫をし、協力して教育活動を行っていきたい。